

1 背景

近年、豚熱や高病原性鳥インフルエンザの発生などを受け、公務員獣医師の重要性が増している。しかしながら、多くの自治体で獣医師の確保に苦慮しており、愛知県においても採用試験を受験する学生は年々減少している。このような状況の中、愛知県では、仕事の魅力を伝えて就職につなげるために、獣医系大学生に対して毎年インターンシップ研修（以下研修）を実施している。今後のより効果的な研修実施のため、これまでに実施した研修内容や学生へのアンケート結果及び研修後の就職状況を取りまとめたので報告する。

2 研修実施方法

平成22年度から受け入れを開始し、当初は県畜産関係機関全体としては計画的に実施せず、各家畜保健衛生所（以下家保）で個別に実施していた。平成29年度から、獣医師職員が働く職場を広く紹介するために、学生が5日間で県の複数機関を訪れるように体系化した。具体的には、様々な依頼元を介した依頼を畜産課で一括して受け付け、中央家保高度病性鑑定課企画調整・特定伝染病グループから県関係機関（家保、畜産総合センター、農業総合試験場、農業大学校等）に受け入れを依頼することとした（図1）。研修当日は各受け入れ先機関の概要説明後に見学や体験を実施した（図2）。また、参加した学生に対しては研修終了後にアンケートを実施した。

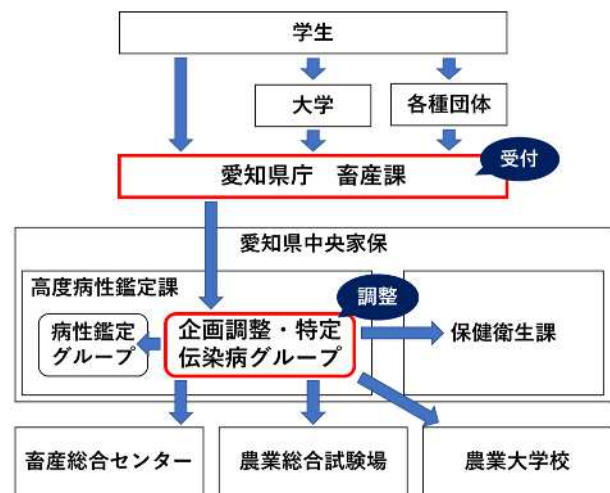


図1 受け入れの流れ



a. 畜産総合センター
（種鶏場）



b. 畜産総合センター
（酪農課）



c. 中央家保高度病性鑑定課
（病性鑑定グループ）

図2 研修の様子（一部）

3 成果

(1) 受け入れ実績

平成22年度から令和5年度までに計83人の学生を受け入れた（図3）。そのうち61%（51人）が愛知県出身者であった。年度ごとにみると、平成22年度から平成28年度までは1年あたり4人前後の学生を受け入れていたが、近年は受け入れ人数が増加傾向にあり、令和4年度及び5年度は最も多い12人を受け入れた。また、令和2年度以降は愛知県以外の都道府県出身の学生の割合が高くなっていった。受け入れた学生の学年は5年生が最も多く、63%（52人）を占めていた。そのほか、4年生が16人、3年生が13人、2年生と6年生が1人ずつ受講していた。受講生の在籍大学は岐阜大学が最も多く、そのほか全国の17大学の学生が受講していた。これらの様々な学年、大学の学生は、個人での依頼のほか、大学や中央畜産会・体験型NPO等の団体を介して愛知県に受け入れの依頼をしていた。

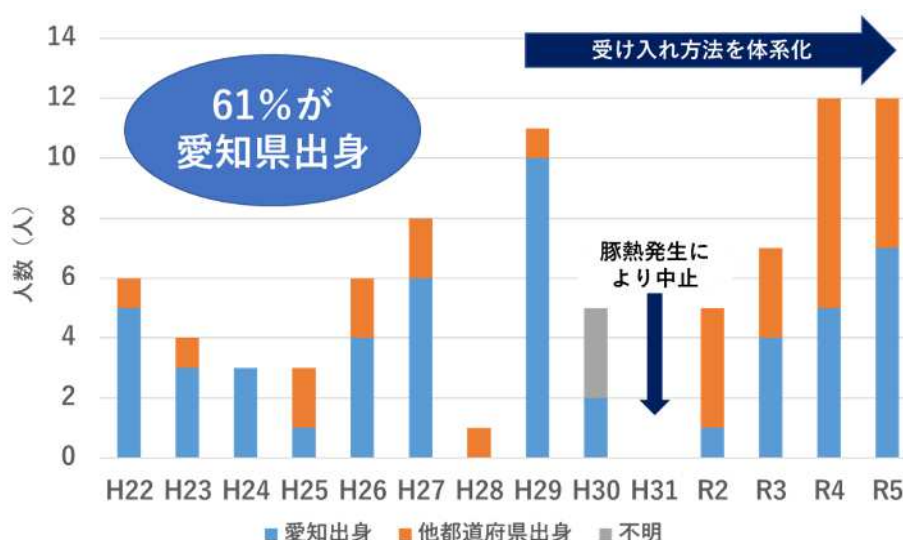


図3 年度別受け入れ人数

(2) アンケート結果

① 愛知県の研修に参加した理由

平成30年度以降のアンケート結果をまとめた。全体の7割の学生が、受講理由として愛知県出身であることや親戚が在住していること、近隣県出身であることなど、愛知県になじみがあることを挙げていた。また、名古屋コーチンや鶉などの愛知県の畜産に興味があることや、畜産に関わらず愛知県そのものに興味があることを挙げる学生もいた。その他、交通の便がいい、先輩が就職していた、等の理由があった。

② 研修全体の感想

平成29年度以降のアンケート結果をまとめた。好意的な感想として、いろいろ体験できて楽しかった、大学ではできない貴重な経験ができた、などがあった。

また、研修前は公務員獣医師の仕事内容をあまり知らなかった学生から、実際に生きた動物と関わる機会が多く魅力的に感じた、仕事内容が多岐にわたると実感できた、やりがいのある仕事だと思った、などいい意味でイメージが変わったとの感想があった。その他、職員と話す機会があってよかった、職場の雰囲気がかかった、様々な働き方ができプライベートを充実させられることに魅力を感じた、との感想があった。一方で、暑くてばててしまった、水分補給が足りなかった、着替え等の持ち物や集合場所の伝達が不十分だった、との不満も見られた。

(3) 就職状況

平成22年度から令和3年度までの受講生59人のうち、26人(44%)が愛知県の採用試験を受験し、15人(25%)が実際に入庁した。なお、5、6年生での受講生37人に限定すると22人(59%)が採用試験を受験し、12人(32%)が入庁していた。

4 考察

研修受講生・採用試験受験者ともに愛知県出身者が多く、出身県で就職を考える学生が多いことが分かった。また、5年生以上の高学年の受講生は卒業後に愛知県に就職する割合が低学年の受講生と比べて高く、就職先として愛知県を検討し候補に入れた状態で研修を受講していると推測された。以上から、愛知県出身者や5年生以上の学生は就職につながりやすいと考えられるので、積極的にアピールすることが重要である。

一方で、最近では愛知県以外の都道府県出身者の割合が増加し、また令和4、5年度は最も多い受け入れ人数となった。これには、個人・団体問わず積極的に受け入れていることや、学年の制限なく受け入れていることなど、学生に対し広く門戸を開いていることが影響していると考えられた。このように広く門戸を開いていることで増加した受講生に対し、研修を通して愛知県や公務員獣医師について知ってもらい、いい印象を持ってもらうことができれば、愛知県出身者や高学年に限らずさらに就職につながると考えられる。

そこで、いい印象を持ってもらうためにどのような研修を実施すればいいのか、研修内容について考察した。現在の研修は体験中心で、複数機関を訪れる内容となっている。この方法は、公務員獣医師の多岐にわたる仕事内容が体験できることや、いろいろな研修場所で多くの職員の様々な働き方を聞くことができることなどのメリットがある。アンケートでも楽しかった、公務員の印象が変わった、等の好意的な感想が多く、複数機関で研修を実施する現在の方法は、公務員獣医師のイメージアップに寄与していると言える。一方で、アンケートからは、主に学生の夏休み期間である8～9月に実施していて暑さ対策が必須であることや、依頼元や受け入れ先が複数であるために情報伝達が煩雑で、学生への情

課題への対策

- 半袖の作業着
- こまめな休憩、水分補給
- 初日のオリエンテーションで2日目以降の集合時間・場所を再確認
- 着替えについて具体的に連絡
(つなぎの中に着る服2セット等)

図4 課題への対策例

報伝達が不十分になっている場合があることなどの課題も明らかになった。これらの課題への対策を行い、学生が快適に参加できる環境を作ることが重要である（図4）。

5 今後の展望

インターンシップ研修を通して、愛知県や公務員獣医師についてあまり知らない学生に、仕事の魅力・やりがいが伝えられる。今後も学生の積極的な受け入れを継続し、情報伝達等の不満点は改善し、様々な機関でいろいろな人の話が聞けるという好評だった点は維持するなど、アンケート結果に基づき内容をよりブラッシュアップして安定した獣医師職員の確保につなげたい。